

遠野市史「現代編」

刊

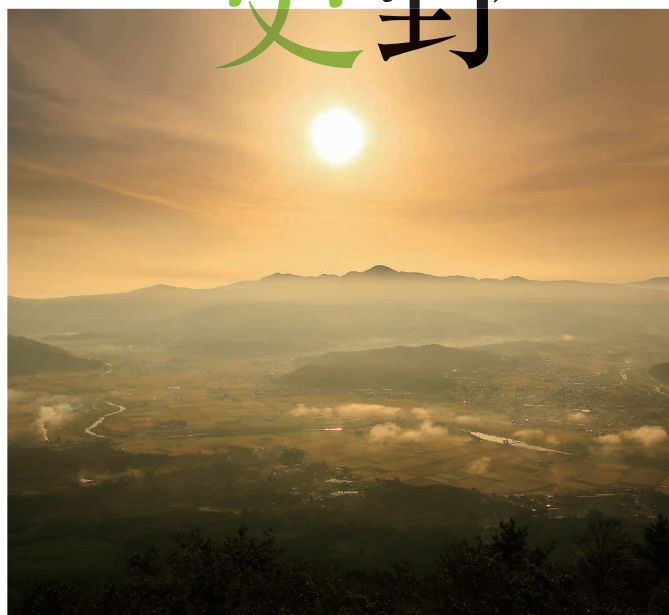
行

遠野市では、
地域の歴史や文化を
後世に引き継ぐため、
平成27年度から
新しい市史の編さんに
取り組んでいます。

現代編

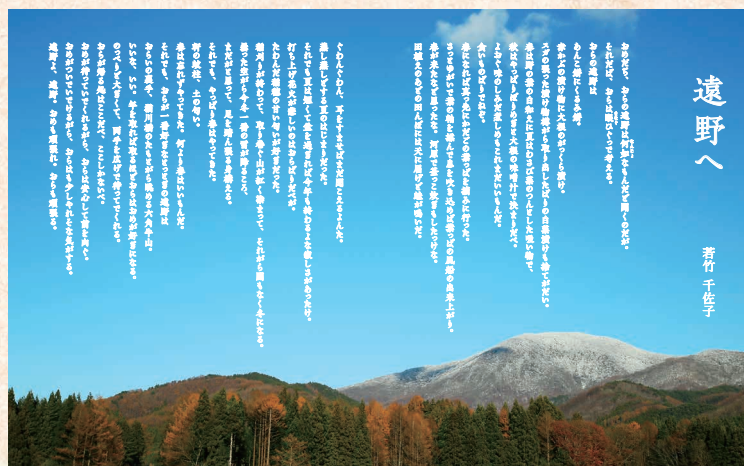
市遠野

新編



岩手国体、平成の大合併、
東日本大震災——
昭和40年代から平成までの
激動の歴史を1冊に

各町を紹介する『遠野まち物語』やコラムも充実。
現代の遠野を知るために必携の書です。



特別寄稿

芥川賞作家・若竹千佐子さんの書き下ろし
エッセイ「遠野へ」も掲載

●体裁・価格

A5判 カラー 496ページ 定価 3,000円(税込)

●購入方法

- ・遠野市立博物館と市内書店等で購入できます。
- ・郵送による申込

書籍代金(現金書留または定額小為替で)と送料分の
切手をお送りください。

送料は、1冊360円です。(2冊以上はお問い合わせく
ださい)

申込者の住所、氏名、電話番号、書籍名、冊数を記
載したメモを同封してください。

●問い合わせ・郵送申し込み先

遠野市民センター 市史編さん室

〒028-0515 岩手県遠野市東館町3番9号 遠野市立図書館・博物館内

TEL 0198-62-2340 FAX 0198-62-5758

『新編遠野市史 現代編』 目次

発刊によせて

遠野市長 本田 敏秋

『新編遠野市史 現代編』の刊行にあたって

遠野市史編さん委員会委員長 大橋 進

『新編遠野市史 現代編』の編さんによせて

遠野市史編さん現代編部会部会長 今野日出晴

凡例

序章 物語と生きる遠野

TonoData 遠野まち物語

第一章 高度経済成長期の基盤づくり

昭和四十年(一九六五)～昭和五十年(一九七五)頃

【時代のうごき】 新たな地域づくりへの模索の時代

第一節 国民体育大会開催とまちづくり

コラム1 「サッカー物語」

第二節 高度経済成長期の産業の姿

第三節 人間生活優先の理念と拠点整備

コラム2 生活に彩を添えた庶民の娯楽

第四節 医療の充実と乳児・高齢者への対応

第五節 遠野の特長を生かす教育環境の整備

第二章 トオノピアの実現を目指して

昭和五十一年(一九七六)～昭和六十年(一九八五)頃

【時代のうごき】 低成長時代での「トオノピアプラン」

第一節 水田転作と北上山系総合開発

第二節 郷土愛を育む多様な取り組み

第三節 高速交通時代の幕開けと観光ブーム

コラム3 遠野を超えた歴史遺産 浦田穂一が遺したものと

第四節 成人病対策で豊かな長寿社会を

第五節 人口減少下の学校教育と遠野らしさ

コラム4 夢を乗せて列車が走る 釜石線の「めがね橋」

第三章 「永遠の田園都市」づくり

昭和六十一年(一九八六)～平成七年(一九九五)頃

【時代のうごき】 平成の始まりと「永遠の田園都市」

第一節 空前の好景気に公共投資が拡大

第二節 グローバル化の時代と地域農業の確立

コラム5 厳しい自然条件を逆手に 成功したワサビ栽培

第三節 縦割りの壁を越えて築く支援体制

第四節 教育課程の改善と生涯学習の充実

コラム6 海外で活躍した遠野人 岸田袈裟さん

第四章 二十一世紀の住みよいまちづくり

平成八年(一九九六)～平成十七年(二〇〇五)頃

【時代のうごき】 合併と「永遠の日本のふるさと遠野」

第一節 時代の転換点の魅力ある地域づくり

第二節 地域に根ざした生産活動

コラム7 「天皇杯」二つのむらづくり

第三節 地域ぐるみの総合的な社会福祉

第四節 ゆとり教育と生涯学習機会の拡充

コラム8 なぜ遠野と言えは河童なのか？

第五節 「永遠の日本のふるさと遠野」が誕生

第五章 遠野スタイルの創造・発展へ

平成十八年(二〇〇六)～平成三十一年(二〇一九)

【時代のうごき】 令和に引き継ぐ「遠野スタイルの創造」

第一節 市民が主役のまちづくりを目指して

第二節 産業の創出・発展と広域経済圏形成

コラム9 ジンギスカンと遠野

第三節 健やかに人が輝くまちづくり

第四節 学校再編とふるさと文化の継承

第五節 東日本大震災の影響と復興支援活動

コラム10 遠野市民と後方支援活動

巻末エッセイ 「遠野へ」

若竹千佐子

資料

歴代首長等

参考文献一覧

掲載図版一覧

協力者一覧

関係者名簿

現代編年表

●遠野市史刊行計画

		刊行予定年度
資料編	原始・古代・中世	令和5年度
	近世	令和6年度
	近現代	令和6年度
通史編	原始・古代・中世	令和9年度
	近世	令和8年度
	近現代	令和9年度
民俗編		令和9年度
遠野市史叢書		随時刊行